

なほ

7月号
vol. 149



特集

だじだじ

⑤ 学生さんも住める市営住宅って！

「日焼けしたくないチャリ」
南津守3丁目付近にて撮影

2018年1月からゆ〜とあいは居住支援法人のなかま入り。まちの人の相談の中で「このまちの公営住宅や古い木造住宅をもっと活かさなきゃ。」そんな気持ちがふつつあふれてくる。ヒントを探しにいろんなところへ、いろんなひとに。

ゆ〜とあひ

⑤ 学生さんも住める市営住宅って！

神戸市が2017年から学生向け公営住宅をスタートさせた。同年6月26日付の「神戸新聞」には興味深い取り組みが紹介されていた。「神戸市は7月から、自治会活動への参加を条件に、大学生や大学入学予定者への市営住宅（復興住宅含む）の賃貸を始める。経済的に苦しい大学生の家賃負担を軽減する目的に加え、平均高齢化率が45%を超える市営住宅のコミュニティを活性化するのが狙い。全国でも例がないとみられ、学生の経済支援▽市内への若者の呼び込み▽市営住宅の空き室解消▽コミュニティ再生―という「一石四鳥」を期待する」。

過疎化や人口減少対策として、地域に定住する若者世帯の確保策として、地方都市が公営住宅や家賃補助を提供することは今や珍しいことではなくなってきた。政令指定都市（政令市）で若者（学生）を対象に、しかも自治会活動の参加を要件にする取り組みはあまり見かけない。今回は神戸市の建築住宅局にその狙いを聞きに行ってきた。

神戸市の建築住宅局にその狙いを聞きに行ってきた。

神戸市の市営住宅の概略

大阪市の市営住宅は10万戸、政令市では最多だが、神戸市は49267戸（2018年）。世帯数に占める市営住宅の割合は神戸市が7.3%（2013年）で、大阪市7.5%、京都市3.4%、堺市1.8%、最少のさいたま市で0.5%なので、なかなかの存在感だ。阪神・淡路大震災（95

年1月17日）以降、震災復興住宅など16000戸以上が建設され、大阪よりも新しい住宅の占める割合も多いが、築40年以上経過した昭和50年以前の老朽化住宅も14776戸（28.5%、2015年3月末現在）ある。

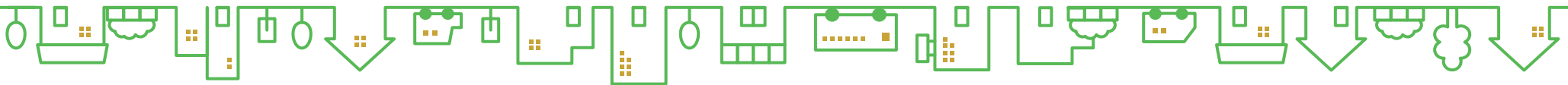
大阪市と比較すると、高齢化率は大阪市が56.3%（2015年）で、神戸市が47.8%（2018年）。世帯当たりの人員は大阪市が1.87人（2015年）、神戸市は1.77人（2018年）である。高齢化と単身化は両市で同じ傾向がみられる。

また、応募状況は大阪市の1407戸に対して応募者数16429人と11.7の倍率（2013年）。神戸市9300戸への応募は10573人で11.4倍（2013年）と大きく変わらない。しかし神戸市では区ごとの応募倍率が大きく異なる。阪神間の東灘区（12.4倍）・灘区（62.6倍）、市の中心部に隣接する中央区（45.5倍）、兵庫区（44.5倍）、長田区（25.3



神戸市役所本庁舎（右）1号館（左）2号館





「神戸のまち」のジオラマ

倍)に応募が集中している。一方の須磨区(6:1倍)、垂水区(3:4倍)、北区(1:8倍)、西区(5:1倍)との差は明らかだ。

以上の概略と建築住宅局で聞いた話から、神戸市の市営住宅も①単身化・高齢化の進展、②利便性や老朽化による入居率のマダラ現象、③局地的に限界集落ならぬ「限界自治会」の問題を抱えているように思えた。私たち西成地域の公営住宅事情と同じである。

意外だったのが、神戸市を悩ませる人口減少問題だ。神戸市は大学入学時に多くの若者が流入するものの、卒業生は必ずしも市内企業に就職しない。その結果、2018年3月と翌年同月の神戸市の人口を比べると、約5000人減少している。

自治会の活性化につながるか？

人口減少と市営住宅住民の高齢化が進むなかで神戸市が学生向け住宅

設備(エレベーターなど)が充実していない倍率が高かったりする住宅での実施が見送られていることも遠因になっていよう。ただ、住まいの支援という考え方が若者にも認知されれば、彼らの利用も増えそうに思える。

とはいえ、住民の多数を占める高齢者と学生のライフサイクルが異なることや、学生期間中+卒業後2年まで(神戸市内の企業に就職した場合)さらに2年延長可)という利用期限などの課題もあり、自治会もど

を検討したきつかけに、県営住宅での取り組みや地域のニーズがあった。「市営住宅の空室に若者が入居し、自治会の活性化も担ってもらおう」というプランは明確だ。しかし、関係機関との調整が必要になる。

1つが、国との調整

だ。国は市営住宅の建設に補助金を出している。その目的は「住宅や住まいに困っている低所得者の方に公募により提供する」であり、学生寮のように大学が窓口となり入居者を決める場合は目的外利用にあたる。よって近畿地方整備局にお伺いを立てる必要が生じるわけだ。

もう1つが自治会活動への参加の義務化だ。自治会活動は住宅によってさまざま、リーダーが引く張るところもあれば、活動そのものが崩壊寸前というところもある。自治会の加入を義務化できても、具体的に

これまで学生に期待できるものか様子を見ているのかもしれない。

取材後にわかったが、神戸市は2017年から、ひとり親世帯向けの家賃補助制度にも独自に取り組んでいる。セーフティネット住宅新法が2017年10月からスタートしても独自事業を貫いている。その理由は「国の制度は、新法での登録住宅のみが補助の対象。制度移行の可能性はあるが、神戸市では今後も、ひとり親家庭への居住支援は継続する」のだそう。今後も神戸市の取り組みに注目だ。

公営住宅の在り方も時代と共に

学生向け住宅が広く、二石四鳥になるまで、まだまだ時間がかかるだろう。しかし、若者を招き入れるストックとして市営住宅を活用する姿勢は、これからの都市行政には必要だと感じた。私たちの西成地域や大阪市もまちづくりという視点でとら



学生向け住宅チラシ

してもらうことを明文化しているわけではない。学生が何を担うかは自治会ごとに異なる。

現在、学生向け特定目的住宅は25物件が登録されており、これまでの利用者は2件。学生個人の利用のみならず、大学の学生寮としても活用している。今後もニーズが高まれば増やしていく意向だが、利用は9戸20人に留まっている(2019年5月1日現在)。「認知度をあげることに1番の課題」と自嘲気味に話されていたが、家を探すときに学生側に公営住宅が思い浮かばないことや、

えると、今後も既存の公営住宅そのものを維持していくのか、全く新しい発想で地域資源として活用していくのかという選択が必要かもしれない。自治機能を維持するだけでなく、たとえば高齢者向け「子育て向け・外国人向け「サービス付き公営住宅」など、住民にとって必要な相談・支援窓口やサービスが併設された公営住宅はありえないのか。住民のニーズがある程度同じであれば、住宅個々の自治機能も有効に働くのではないだろうか。新しい公営住宅の姿を描けそう。

支援を必要とする住民が集中することに賛否両論があることは知っている。また、住宅そのものの在り方を規定する公営住宅法を変えないと難しいことも承知している。しかし、何事も時代と共に変化が必要があるように、公営住宅も変わる必要があると思えてならない。もう少し、公営住宅については追いかけてみたい。

文責：西田吉志・田岡秀朋



にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

地域の歴史を刻む石碑に立ち止まってみた

今回は西成区に住んでいても見逃しがち、見たことのあるけど何か知らないものに注目してみた。

為戦災無縁諸霊菩提

まず1つ目は、日産大阪今宮店の前にある石碑。「いせんさいむえんしよれいぼだい為戦災無縁諸霊菩提」と書かれている。戦災で亡くなり、弔う人がいなかった人の冥福を祈るものだ。

1945年3月13日、アメリカ軍が大阪市内を中心とする地域へ無差別爆撃をおこなった大阪大空襲。同年6〜8月にも同様の空襲があり、10000人以上の犠牲者を出したと言われている。この大阪大空襲は浪速区の塩草を標準点の一つにしており、上空から先導機が炸裂するナバーム弾を投下、そ



して後続機が焼夷集束弾を投下した。焼夷集束弾は空中で38発の小さな焼夷弾に分かれて火の雨となって降りそそぎ、この空襲で浪速区とこの石碑一帯の西成区は焼き尽くされてしまった(本誌120号も参照)。

大阪大空襲で亡くなられた人たちを弔うために建てられたこの石碑の側面には、昭和三十九年再建と書かれている。何があったのだろうか。裏面には発起人氏名と後援町会連合会世話人氏名が記載されている。

私自身もこの石碑は何度か見たことがあったが、碑文は読まずに素通りしていた。今回じっくりと見てみ

ると、とてもきれいな状態で横に浄水が供えられてあり、今でも定期的に掃除されている証と知った。このような石碑は西成区だけでなく、大阪市内にも数多く点在する。たまには足をとめ、戦争の悲惨さ、戦争を二度と起こさないためにはどうすべきか考えてみる機会にははどうだろうか。

この石碑は国道43号線の中開交差点付近(大阪府大阪市西成区南開1の6)にある。

てんのじ村記念碑

難波利三の『てんのじ村』という小説をご存知だろうか。戦前、戦後を生きた漫才師たちの生きざまを描いた直木賞受賞作品である。この小説の舞台となった「上方演芸発祥の地、てんのじ村記念碑」を訪ねた。

この碑の南側に広がる通称「てんのじ村」には、かつて大阪の芸人が住んでいた。現在は、西成区山王という地名だが、一帯は道頓堀から千日前、新世界とつづく長屋街の一角で、多



くの芸人が集い住んでいた。三味線を抱えた人たちが行き交い、三味の音に踊る影絵が障子に映り、稽古が夜遅くまで続いていたという。

80年以上前から終戦あたりまで、最盛期には300から400人くらいの芸人たちが住んでいて、全国的な人気者になった芸人さんも数多くいた。代表的なのがミヤコ蝶々、人生幸朗、平和ラッパ、海原お浜・小浜などなど(私にはほとんど誰かわからな



かった)。しかし、この一角は阪神高速建設時に取り壊され、かつての芸人村を偲ぶものはこの石碑のみといった風情だ。ただ、この石碑の周りにテレビ局名を刻んだ碑が並んでいるのが印象的だった。

この記念碑だけを見に行くことはないだろうが、この記事を読んで興味を持った方は新世界に飲みに行くついでに、立ち寄ってみてはどうか。ただ、場所はかなりわかりにくい。西成区山王1丁目、JR新今宮駅から徒歩10分、阪神高速の阿倍野入口横あたり。

文責：山村裕太



[田岡秀朋] 大阪城公園のBBQが知らぬ間に有料に。指定管理者の導入で「稼いで再投資する公園」になったが、行き過ぎた「商業化」は公園にはなじまない。



[佐々木敏明] うりずんやヤマト見かざる守礼門 巨石縫い御嶽に宿る黒揚羽 万緑が基地をことわりめんそーれ



[沖田一志] 先日、泉南→和歌山と仕事で行って来ました。途中の阪南市には住んでたことがあり、屋に立ち寄ったマクドは長男が誕生した日の早朝に一人で休憩した店。なんだか懐かしく感じた。



AILEEN PEARL B, FELIX (アイリーンパールバティスト) さん

ゆ〜とあい3階の「GCC kidsインターナショナルスクール」の英語講師アイリーンです。出身国のフィリピンでは小学校、高校で主にパソコンを教えていました。日本にきて11ヶ月。趣味は絵画、ダンス、一番はハイキングです。スクールでは、子どもにとって常にベストなサービスを提供したい、そして、温かく子ども達を見守れる職場をつくっていきたくと思っています。講師として、人として、もっともっと成長していくので、これからもよろしくお願ひします！

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのゆったり系コラム。

『雪の絵本』

戦前、サハリン島は北緯五十度線を境に、北半分をソ連が、南半分を日本が領有していた。樺太または南樺太と呼ばれたその土地には多くの日本人が移り住み、居住人口は最大で四十一万人に達した。『雪の絵本』は雪にまつわる詩や民話、風物を紹介する小文集だが、著者の極めて個人的な、樺太で過ごした幼少期の日々についても触れられている。

小さな蒸気機関車が牽く狭い客車に揺られ、オホーツク海に沿って東海岸をひたすら北上すると、南新間(みなまにわ)という名の終着駅に着く。ここは昭和六(一九三二)年当時、日本最北の駅だった。そこから更に馬車で四時間ほど走った先の小さな炭鉱町で、著者は小学生時代の数年間を過ごした。家々が街道沿いに並び、十字路が二つと、店は雑貨屋が二軒あるだけの簡素な集落。中央を川が流れ、橋の袂に父の通う炭鉱の事務所があった。思い出すのは、空の広さ、夜の広さ、そして星の豊かさだ。電気はなく、石油ランプで暮らした。

北国の短い夏が終われば、たちまち凍てつく冬がやって来る。広い空から、雪は惜しみなく降った。雪の城を作った雪合戦、月夜に蒼い光が忍



び込む小さな雪の家。学校の小山はスキーや極遊びの格好の舞台となり、高等一年の喜八郎や保ら多くの子供達の笑いで溢れた。腕白な魚屋のイサムは、湯たんぽを櫛にして誰よりも速く斜面を滑り降りた。溝がたくさん付いた湯たんぽは、素晴らしく速い櫛になった。

やがて一家は樺太を離れ、東京へ。数年後、父が電車内で狭心症の発作を起こし、駅に下ろされて間もなく息を引き取る。その翌年には太平洋戦争が開戦、樺太に留まったイサムや保らも学徒出陣の名のもと兵隊に取られ、遠い異国の戦場で死んで行った。歳月に洗われ、色褪せて風化する記憶もあれば、より一層鮮やかに光を放つ記憶もある。著者は、忘れないことが唯一の鎮魂であるかのように彼らの姿を書き付けている。それは、若くして人生という舞台を去って行かざるを得な

6 畳間

デザイン

「バリアフリー」で連想するもの——街で見かけるスロープや点字、足元のあの黄色いブロック。最近「バリア」に含まれる心の段差を取り払い、対象を誰にも限定しない「ユニバーサルデザイン」という言葉が使われるようになってきた。多目的トイレや絵のような標識のビクトグラム、間口の広い改札口だけでなく、教育にもそのデザインが取り入れられている。

「僕達の生活はデザインに支えられ、使いやすく魅力的なモノ・コトを創り出し、課題を解決してきた。ただ、デザインはあくまで底上げ。それで全てが解決するわけではない。深く関われば関わるほどに「より違う」ことに気付かされる。

「みんな違って、みんな良い。」には、違いを包みこむしなやかな柔軟性が必要。それこそ正に「まち・地域」が、これまで幾度とリデザインし紡いできた確かなものだ。

「違っていい」と主体的に動きたせば、まちはきつと包み込んでくれるはず。(安田拓也)



まちの心のシンボル「ツル」のデザイン

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

かった者たちに対して、自ら選び取った誠実さのように思われた。記憶は、時として祈りである。

昭和二十(一九四五)年八月九日、ソ連が日本に宣戦布告し、十一日には北緯五十度線を越えて樺太に侵攻。日ソ両軍の戦闘はソ連軍が南端の大泊を占領するまで十日余り続き、民間人にも多くの犠牲者が出た。生き残った日本人はその後数年かけて大半が引き揚げ、数え切れない人々の悲喜を見届けてきた海峡を、今は吹雪だけが鳴っている。その音はよく聴けば、白く染まった樺太の大地を北へ向かって走り続ける、蒸気機関車の汽笛のようだ。かつて南新間と呼ばれたあの小さな停車場は、ロシア語名のノヴォオエへと名を変え今日に至っている。

今ほもう、思い出の中にしか残っていない場所。人生における短い夏の日々だけが、幾度も繰り返される場所。少し手を伸ばせば届きそうな、だが、そんな錯覚などたちまち風に流されて消えてしまうほど遠い、遠い昔の話である。

ハンブレイ・T

神沢利子『雪の絵本』三笠書房、1971年

[安田拓也] 初の沖縄旅行。惹かれたのは断崖絶壁の城跡を覆う壮大な曲線の石垣「今帰仁城跡」と独特な外観「名護市役所」。沖縄の地を最大に活かした建物の新旧。後ろ髪を引かれ無事帰阪。

[西田吉志] 幼稚園のPTAの仕事に驚愕。パソコンを得意としない2人が広報委員にあてられ、年間予算3万円ですべての行事を年3回発行。すべての行事に参加して写真も撮る。どうにかしてと言われても…

[谷口円] 最近食べた美味しいお菓子：信越エリアで限定販売中の「超厚切り」ポテトチップス「ポテトデラックス」。通常のポテチの約3倍の厚みによる歯ごたえが◎。ぜひ全国販売してほしい…

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとお喋りを聞いてください。



「ポトス」の巻

私の得意技、それはつるがグングン長く伸びる事。つるをハサミで切ってもへっちゃらです。

光と水さえあれば大満足。

手のかからない私は、自慢じゃないけどみんなの人気者！(笑) 葉っぱはとても丈夫です。

緑一色、たまに白いラインも入ってオシャレもします。

花は咲かせません。

私は葉っぱ一筋。

ご先祖さまから引き継いだ立派な葉っぱで勝負です。

私の自己PRどうでしたか？

100点満点だったらうれしいな。

赤井まゆみ

ポトスのこと

サトイモ科ハブカズラ属に分類される性の多年草。花言葉は永遠の富、華やかな明るさ。

い湯かげん

戦争や差別の体験を風化させてはいけない

丸山穂高衆議院議員の戦争挑発発言や、長谷川豊参院予定候補の部落差別講演には驚かされた。彼らに限ったこととは思えない、昨今の歴史に向き合う軽々しさや嘘々しさは、一体何なんだろうと考えてしまう。

そんな折、熊本県の田原坂にある西南戦争記念資料館を見学する機会があった。薩摩軍が発行した贖札「西郷札」の現物が展示されていることや、博愛社(日本赤十字社の前身)の特別企画もあるとの案内があったからだ。結果は少々期待外れだった。「最後の内戦」西南の役のことは、西郷隆盛とともにあまりに有名なんだが、その内戦が何とも悲惨であっ

たことはあまり語られない。田原坂もさることながら、大分県の竹田など、平穏な集落が瞬時のうちに地獄絵の如き悲運を辿ったのだが、人はこれほどまでに残酷になれるものなのかと立ちすくんでしまうほどのに、だ。そんな乱暴の極みに「西郷札」による強奪もあり、博愛社の佐野常民が救護に奔走した因もあった。

これこそ展示されたら良いのにと思うのは、「苦海浄土」の著者石牟礼道子さんの『西南役伝説』に収められている伝承だ。この聴き取り記の冒頭は、水俣市の古老だ。「実地に見たのは西郷戦争が初めてじゃったげな。それからちゅうもん、ひつつけひつつけ

戦さがあつて、日清、日露、満州事変から、今度の戦争(太平洋戦争)」。思えば世の中の展(ひら)く始めになつたなあ。わしや、西郷戦争の年、親達か逃げとつた山の穴で生まれたげなばい。天草の古老からの聴き取りも庄巻だ。「この村は、耶穌宗のいくさ(島原の乱)にも遭わん村じゃつたが、(西南の役で)村中の働き手を、さうやってゆかれてみると、苗字のなか者の世がくるちゅうても、お上というものがおるかぎり、取り立てることばかり。御一新とはどがな世が来るかと心配しとつたら、案のごとく人を奪つてゆかいた。目も覆う悲惨な戦禍を、涸れたようなまなざしで見つめていた民の声を、石牟礼さんは見事に拾い集めた。もうすでに「もう一つの惨事(水俣病)」が、貧しい不知火海沿岸に押し寄せてきていた頃の聴き取りだった。

た「人間をいたわるかの如き運動」は同じものであり、水俣の惨劇もそうだった。沖繩の人々が見た「戦後」も同じものだっただろう。橋下徹さんや維新の会が、大坂人権博物館の「(運営の)非効率さ」を指摘するあまり、その展示内容を、石牟礼さんが拾い集めた「民の抗い」を感じ取り、「弁士中止!」としたのなら、はたまた、田原坂の記念館が「それ」を過敏に避けたとしたのなら、「お上というもの」の所業ではないだろうか。ポクは、田原坂の記念館がこれから良いものになっていくと期待する。維新の会も、身から出た錆を省みてくれることを期待したい。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

6月8～9日に開催された部落解放同盟大阪府連合会の合宿のテーマはまちづくり。①地域福祉計画の中で「部落差別解消推進法」や「障がい者差別解消法」「ヘイトスピーチ禁止法」など人権のテーマをしっかりと踏まえること、②そこで果たされるべき隣保館の役割、③地域資源の見直しと連携を通して町が抱える課題を解決する方策が話題になった。具体的な活動はすでに各地区で取り組まれている——こども食堂や学習支援、買い物難民のための乗り合い自動車事業、ボランティアマイレージ活動、公営住宅の住宅福祉事業などなど。

ところで、行政はいったい何をしているのか？ 市民生活をよくするために、行政は(住)民ではできないこと、行政の責任としてやるべきことがあるはず。そのためには、住民をはじめ様々な地域の主体と認識を共有し、共に取り組むことが大切であろう。しかし、なかなか一筋縄では動いてくれない。そのために何ができるのか。

(寺本良弘)

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



[若松司] Under construction?



[山村裕太] 先日ほぼ一日なぜかタバコを吸いませんでした。「このまま禁煙してみようか!」と決意した10分後に新品のタバコがなぜか私の右手に握られていました。



地域の縁を心でつなぐ

心の時間



松崎 寺 公

「仏壇を処分したいのでお魂抜きをして下さい。」という依頼があると、お魂を抜く霊力は持っていませんが引き受けます。実は「お魂抜き」とは大切にしてきた仏壇の元での最後の法事の俗称で、正式には「遷仏法要」と言います。仏壇を大切にすることが法事を営ませるのです。法事には人の心を変える力があります。葬式も同じで、良い葬式は人の心に力を与えます。しかし、直葬には心を変える力はありません。

直葬の依頼を受けると、「人は死ねばゴミになる」という本を思い出します。仏教では、お葬式とは故人を送ると共に仏様になった故人を迎える儀式です。しかし、故人を迎える儀式のない直葬は「直送」に過ぎません。

『論語』に「功言令色鮮矣仁」とあります。「言葉上手で外観は取りつくろっても、その人の行いを見れば、思いやりのない心が見える」という意味です。確かに人の心は目に見えませんが、その人の振る舞いから心が見えます。葬式から人の心がよく見えてきます。 松向寺 通法

新編集体制をよろしく！

8月号から『なび』の編集体制が変わる。2015年7月からちょうど4年間、編集長を務めてきたわけだが、それらしい仕事はしてなかったというのが率直な感想。

というのも、教育をテーマに学校や団体のことを取り上げることが中心で、全体の構成はお任せ状態。取材を通じて、新しい気付きはあったが、それを喜ぶだけでは、編集長の役割とはいえなかった。忙しさがかまけていたかもしれないが、正直、少し荷が重たかった。

新編集体制への期待を何点か。ひとつは「いまの型にこだわらなくてもよい」。構成や発信のカタチを変えてみるのもいい。ふたつは「発行が目的にならないように」。書き手それぞれの個性を活かし、物議を醸すネタがあってもいい。なにより、新体制をチャンスと捉えてほしい。

「カウント2.99」はこれにてカウント3(終了)を迎えるが、世の中や自分、家族の出来事を隣保館の視点で捉える時間をつくれたことは自分のためにもなった。今後もこの視点を大切にしたい。

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



なび編集長 寺嶋公典



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび7月号(vol.149)
発行日:2019年7月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太、若松司(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook



facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>